

◆アンケートでお寄せいただいた、保護者の皆様の声をまとめました。すぐにお答えできることについては、簡単ではありますが記載しましたのでご覧ください。

【学校生活全般、お便り等に関すること】

- ・安心して学校に通うことができます。ありがとうございます。
- ・いつも丁寧に子供たちを見ていただき、ありがとうございます。
- ・毎日、楽しそうに学校に通っています。ありがとうございます。
- ・コロナ禍で大変な中、いつもありがとうございます。
- ・ブログを毎日楽しく見えています。様子が分かりやすいので良いですね。
- ・いつも丁寧にご指導いただき本当に感謝しています。クラスだよりやブログ、とても見やすく読み応えがあって、楽しく見させてもらっています。ありがとうございます。

○私たちに勇気をくださるようなお声、こちらこそありがとうございます！今後も鹿谷小学校、ベストを尽くします。いつでもお気軽にお声掛けください。

【1人1台端末(Chromebook)等に関すること】

- ・文科省では置き勉を認めていますが、鹿谷小はどのようにお考えでしょうか？学年が上がるにつれて教科も増え、荷物が増えるので子どもの負担を懸念しています。
- ・Chromebookの週末の持ち帰り、ランドセルが5kg以上にもなり、非常に重いと感じます。そこまでして持ち帰って、家庭での利用価値が分かりません。
- ・タブレットの普及によって、鉛筆を使って書くという習慣が損なわれすぎないようにお願いします。
- ・私は学生時代、「書いて覚える」で過ごしたのですが、書くことが少ない現在では何十年後まで頭の中に残っているのかなと心配になります。しかし指先ひとつで何でも分かる時代なので、必要ないかも知れませんね。
- ・タブレットになり、現在何を勉強していて、何の宿題が出されているのか全く分からなくなった(子供が見せてくれないので)。

○「置き勉」について。基本は教科書等を学校に置いておき、その日の家庭学習で必要なものを持ち帰るように指導しています。高学年になるほど「自己判断」で行動できることを目指し、低学年ほど何を持って帰るといいか、先生が指導・助言する割合を増やしています。

○Chromebookの持ち帰りについて。鹿谷小は3年生以上で「週末には持ち帰り、平日は学級の必要に応じて持ち帰ること」を基本としています。ゆくゆくは「児童各自のニーズや理解度に合わせ、児童それぞれに合った学習端末の利用を工夫していく」ことが求められます。そうすると、どこかにしまっておくのではなく、なるべく学習端末を身近に置いて活用しやすくする方向となるでしょう。ただ、その分ランドセルは重くなりますので、当面は上記「置き勉」の量で調節していきます。…しかし、もしかしたら近未来に、教科書が「紙」ではなく電子化され、タブレットに入るかもしれませんね。(世界には、そういう国や地域がすでにあります。)

○「書くこと」について。私たちも保護者の皆様と同じことを考えています。「書くこと」を通して身につくことがたくさんありますので、軽視するつもりは全くありません。同様に、ICT 機器を通して身につけられる能力もありますので、バランスよく、学習活動を工夫します。

【気がかりなこと】

- ・落ち着きがないので心配です。
- ・勉強が楽しいと思えない様子で、苦手意識があるので少し心配です。
- ・毎日すすんで宿題に取りかかってくれますが、自学となると手を抜きます。ほどほどに宿題を希望します。
- ・宿題に時間がかかりすぎ、就寝時間が最近遅い。
- ・学校を楽しめているかが分からない。
- ・朝、「学校に行きたくない」と言います。頭が痛くなることも多いようです。
- ・学校が楽しくないと本人談。
- ・自分の主張が強くなってきた気がします。
- ・最近、反抗的な態度が見られるようになってきました。学校ではどうなのか心配です。
- ・最近、自己中心的な考えや行動が目立ってきたように思います。
- ・時々、どこで覚えたのかというような言葉遣いがきかれ、TV等の制限が自宅ではできておらず、悩む。

○困り事、心配事などもお教えくださり、ありがとうございます。

○感じ方も考え方も、表現の仕方もそれぞれに違う子供たち。調子のいい時や悪い時、充実している時や楽しくない時など、大人と同じようにゆらぎながら生活しているのだと思います。そこで私たちはまず、どの児童にも等しく注目し、君たちは本当に大切な存在なんだということを伝え続けたいです。もちろん、学習についても、個別対応も含めた工夫を継続します。

○思春期にさしかかる子供たちもきっといるでしょう。自己主張が強くなったり、反抗的に思える態度やマイナス的な発言が気になったりする場面も見え始めると思います。しかしそれは、成長の証！かつては食事や着替えですら一人でできなかった子が、親に反抗できるまでに育ったのです。成長に必要な過程だと、どんと構えて受け止めてあげてください。

○保護者の皆様と私たち学校との連携に不可欠なことは「情報の共有」、簡単に言えば、気さくに声をかけ合える関係でいることです。今後とも、遠慮なさらず学校にお声掛けください。この子供たちのために、力を合わせましょう！

◆紙面の許す限り、できるだけ多くのご意見を掲載しました。今後とも、良いことも言いにくいことも、遠慮なさらず皆様のお声をぜひ学校へお届けください。真摯に受け止めさせていただき、子供たちの成長に役立てる学校づくりに取り組んでまいります。